

### 391. 地域在住高齢者における身体パフォーマンス 評価指標を用いた身体的虚弱状態スクリーニング法 の有効性(生活・健康, 第62回日本体力医学大会)

著者	金 美芝, 藪下 典子, 松尾 知明, 大藏 倫博, 田中喜代次
雑誌名	体力科学
巻	56
号	6
ページ	774
発行年	2007-12-01
権利	日本体力医学会
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00125721">http://hdl.handle.net/2241/00125721</a>

### 391. 地域在住高齢者における身体パフォーマンス評価指標を用いた身体的虚弱状態スクリーニング法の有効性

金 美芝<sup>1</sup>、藪下 典子<sup>1</sup>、松尾 知明<sup>1</sup>、大藏 倫博<sup>1</sup>、  
○田中 喜代次<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>筑波大学大学院 人間総合科学研究科)

【目的】高齢者における身体的虚弱は、身体的自立度に不安を生じさせることから、一次予防的視点から、身体的虚弱に陥りやすい高齢者をいち早く発見することが重要であるといわれている。しかし、身体的虚弱な状態を客観的にスクリーニングしうる標準的な方法について十分な検討はなされていない。そこで、本研究の目的は、身体的虚弱を移動能力の低下に対する危険性が増加した臨床の状態と定義し、身体パフォーマンス評価を用いた「身体的虚弱状態のスクリーニング法」の有効性について検討することとした。【方法】60歳以上の地域在住高齢男女360名(72.1 ± 6.7歳)を対象として3項目の移動制限(400 m 歩行の困難度、椅子からの立ち上がりの困難度、10 階段昇りの困難度)に関するインタビューを実施し、その回答より“*No difficulty*”, “*Moderate difficulty*”, “*Severe difficulty*”の3群に層別化した。健康状態については、疾患の有無、自己評価による健康度、過去1年間の転倒の有無、家族構成などを調査した。また、身体パフォーマンステストとして、握力、開眼片足立ち、*tandem balance*、*functional reach*、8回足踏み、*timed up and go (TUG)*、長座体前屈、5 m 普通歩行、5回椅子立ち上がり、3 m *tandem walk* の計10項目を測定した。【結果】質問紙による健康状態について3群間を比較した結果、全ての項目について有意な差がみられた。さらに10項目の身体パフォーマンステストについて、年齢、性、疾患数、BMIを調整し、3群間を比較したところ、TUG、5回椅子立ち上がり、5 m 普通歩行、8回足踏み、3 m *tandem walk* において有意な差がみられた。そこで、これら5項目に対し、身体的虚弱状態を変数として身体パフォーマンスに対するROC曲線を求めた結果、TUG (cut off 値:7.0秒以下同様)、5回椅子立ち上がり(7.0秒)、5 m 普通歩行(3.8秒)、8回足踏み(4.3秒)、3 m *tandem walk* (11.9秒)の5項目は、“*No difficulty*”から“*Moderate difficulty*”の識別において大きなROC曲線下面積(AUC = 0.7以上)を示した。また、“*Moderate difficulty*”から“*Severe difficulty*”の識別においては、TUG(9.1秒)、5回椅子立ち上がり(9.9秒)、5 m 普通歩行(4.7秒)の項目についてROC曲線下面積(AUC = 0.7以上)を示した。【結論】本研究で示された身体パフォーマンス5項目のcut-off値は、高齢者の身体的虚弱状態をモニターすることが可能であり、適切な身体活動プログラム開発のための有益な情報提供するになると考えられる。以上より、一次予防的視点から、身体パフォーマンステストは身体的虚弱に陥りやすい高齢者をいち早く発見するための客観的スクリーニング法の一つとして有効であることが示唆された。

Key Word

身体的虚弱 身体パフォーマンス スクリーニング法